

花博とは

花博とは、国際園芸博覧会の通称。大規模な会場に世界中の特色ある花や木、植物を移植し、数カ月にわたって市民や観光客を楽しませるイベントです。

緑あふれる街の創造などを目的として、一九六〇年にオランダで行われて以降、ヨーロッパでは定期的に開催。日本でも一九九〇年の大阪「花の万博」をはじめ、淡路、浜名湖で行われています。

開催には、あらかじめ国際園芸家協会（AIPH）に申請し、承認を受ける必要があります。

参考事例 '86さっぽろ花と緑の博覧会

緑化推進を目的として開催。国際博覧会ではないが、全国各地から出展があり、「リリートレイン」がお目見えするなど、多くの観光客を楽しませた。

会期 1986年6月～8月（65日間）

会場 百合が原公園

来場者数 約148万人

総費用 約20億円※公園造成費を除く

経済効果 約82億円



札幌で花博を行う場合の想定

仮に札幌で花博を開催した場合、どのような形がふさわしいか、市がまとめた想定を紹介します。

テーマ：「環境」

コンセプト：「より環境を重視した市民の新たなライフスタイルの提唱」

理由 市民・企業・行政が協力し、将来にわたって環境保全に取り組む街・札幌を目指すきっかけとして期待できるため

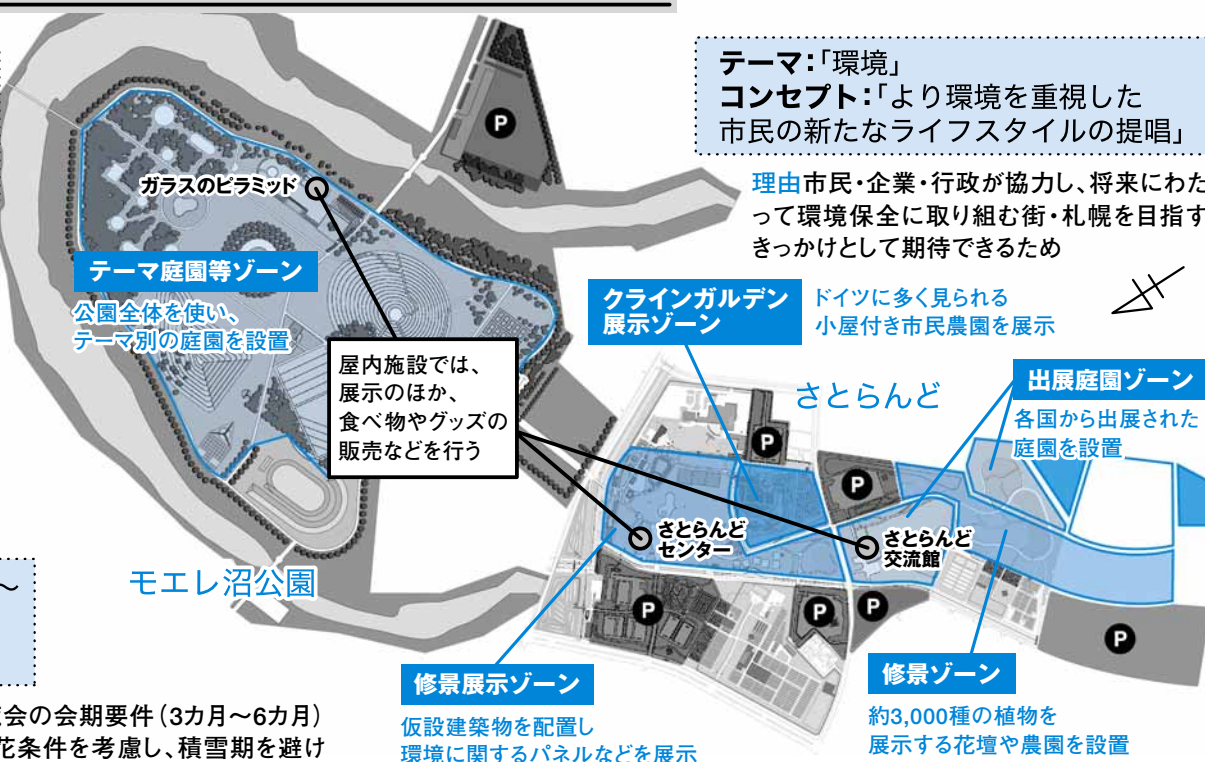
会場：

モエレ沼公園
および
さとらんど

理由 既存の施設を活用し、施設の整備などを最小限にとどめることができるほか、緑豊かなイメージがテーマと合うため

期間：5月下旬～
10月上旬
（約140日間）

理由 国際園芸博覧会の会期要件（3カ月～6カ月）と、札幌の花の開花条件を考慮し、積雪期を避けつつできるだけ四季の花々を楽しんでもらうため



開催年：2015年以降

理由 4年前までに国際園芸家協会への申請が必要であり、準備に少なくとも6年程度の期間を要すると見込まれるため

目標入場者数：300万人

理由 類似イベントの実績、観光客の入り込み状況、周辺人口が少ないことなどを考慮し、浜名湖花博の約545万人を下回るものと想定されるため

総事業費：約245億円

詳細は次ページで紹介

緑豊かな札幌こそ花博開催にふさわしい



「さっぽろ花博」
誘致推進期成会会長
（札幌商工会議所会頭）

私たちは、花博が緑豊かな札幌にこそふさわしいイベントであると考え、かねて開催を提唱してきました。自然との共生が求められる現在、緑豊かな街として札幌を国内外にアピールする格好の機会であると同時に、多数の来場者による経済効果も期待できます。札幌を元気にするためにもぜひ実現させたいです。

たかむき いわお
高向 巖さん

開催した場合のメリット

- ① 花と緑の街として札幌のイメージがアップする
- ② 市民の環境に関する意識が啓発される
- ③ 環境関連の新たな産業の育成が期待できる
- ④ 738億円の経済効果が見込める

花博を開催した場合の直接的なメリットとして、経済効果があります。イベントの準備・開催のために、新たな需要が生まれるほか、来場者の宿泊、観光による消費などで多くのお金が札幌で使われることが見込めるのです。調査の結果、市内で使われるお金の総額は約738億円と試算されました。